

# 授業改善書

科目名	保育内容の研究(表現－音楽)Ⅰ
担当者	金指初恵

## 授業の概要

- ・乳幼児が、歌や楽器によって自己表現したものを受け止め、音楽する喜びを味わわせることのできる保育者を養成するという観点から、幼児期における音楽教育の重要性を理論的に学び、実践的指導力を養うための音楽活動を行う。
- ・ワークショップ型の授業を行い、自らの表現能力とコミュニケーション能力を高める。
- ・学びを深めるために、毎回、授業終了時に「振り返りシート」を配布し、次回の授業で提出する。

## 授業の問題点

- ①幼稚園・保育所での音楽表現の指導法を習得する授業ではあるが、実習未経験であり、保育現場の様子や、子どもの姿をイメージできない学生が多い。
- ②子どもと同じ目線で楽しむことだけに終わってしまい、指導法に結びつけることができない学生がいる。
- ③理論と実技であるため、講義型の授業とワークショップ型の授業を組み合わせている。  
ワークショップ型の授業ではグループ活動が主となるので、欠席をする学生がいると活動が停滞し、出席している学生が十分な学びを得られないことがある。

## 授業改善の課題・方策

幼稚園教諭免許および保育士資格取得のための必修科目であるだけでなく、幼稚園実習のための条件科目になっているために、出席については厳しく指導している。  
映像や資料を基に保育現場の情報を伝え、子どもの姿をイメージし、常に「この活動を指導に活かすとしたら」を意識しながら学べるように指導して行きたい。  
毎回、授業の振り返りとして“学び”を書くシートを宿題にして、次回の授業で提出を求めている。授業の単なる感想ではなく“何を学べたか”を書くことを求めているが、学生自身のためであるばかりでなく、指導したいことが伝わったかどうかを、私自身が振り返ることができるものとして活用している。  
学生の発表や模擬保育の記録映像は、客観的に自己評価するために最終授業で観る時間を作っている。  
ワークショップ型授業では、活動ごとにグループのメンバーを入れ替えている。始めは、普段話したことのない人と活動することに消極的であった学生も少なくないが、徐々に慣れ、授業の終了時点では「現場に出たら役に立つ」「コミュニケーション能力が付いた」など前向きに捉えていた。学生たちはお互いの発言を尊重し、積極的に授業に臨んでいると思われるので、今後も楽しみながら実践的指導力が付くような指導を継続して行きたい。

## その他